

M夫が思いやりのある行動がとれるための指導

八 木 啓 子

1. テーマ設定の理由

T:M(男)s 43年4月13日生 高等部2年 IQ58(鈴木ビネー)

東中学校特殊学級より進学・子ども学園在園

M夫はよく気が付く、面倒見がよい、動物を可愛いがる等の素直で優しい心を持っていながらその反面、陰で弱い者いじめをする、母親(学園から帰省した時)に対し、お金の無心をする、暴力をふるう等の問題行動がみられた。

問題行動の原因と思われる事がらとしては

- (1)、生活環境(学園での先輩とのかかわり)
- (2)、他から認められたり、頼りにされた経験の乏しさ
- (3)、中学時代の問題児というレッテルに対する抵抗
- (4)、基礎学力の低さによる劣等感・・・・等が考えられる。

そこで、基本になる当面の課題として(2)の項目を改善することによりM夫の存在価値を高め、情緒安定を図り、望ましい人間関係を身につけさせたい。このことがM夫の問題行動を除去し、社会参加の可能性をより高めると考えて本テーマを設定した。

2. 指導方針及び指導方法

M夫は週8時間ある職業コースの印刷班で学習している。

印刷学習は正確な技術や細やかな心遣いが要求される作業であると同時に、各作業工程が密接なつながりを持っており、本学習を通して、M夫と仲間達との人間的つながりを深めたいと考えた。また11月25日から12月5日の10日間の校内職業実習では未経験の場も加えて指導を強化したいと考えた。

指導方法としては、班員へのこころくぼりが必要となる班長に任命し、みんなの行動に目を向けさせるとともに、班員が班長であるM夫を頼りにする場面ができるだけ多くなるよう考慮し、校内職業実習の年賀状印刷では、注文取り、配達、請求、集金等の渉外及び製品点検、包装、記帳、計算等の実務の担当とし、作業全体に目くぼりをさせ責任ある立場に立たせ、内外共にM夫の存在をアピール

するよう配慮した。これらの指導により下記の変容を目指したい。

- (1)、印刷班のなかで仲間から好かれ信頼されるような行動がとれる。
- (2)、積極的に他人とのコミュニケーションを図ろうとする。
- (3)、気分が安定し落ち着いて、感情のコントロールができる。
- (4)、行動をとる際の正しい判断が他人の思惑に左右されずにできる。

3、指導の実際

- (1)、印刷班の班長としての自覚を促す（2学期）

<p>『ねらい』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、班長として班員への心くばりができるようになる。 2、班長の仕事内容がわかり役割が果たせる。 	
<p>主な指導内容と（反応）</p>	<p>意 図 ・ 留 意 点</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1、2学期の印刷班の班長に任命する （照れくさそうに下をむいて小さい声で返事をする） 2、班長の仕事内容の指導 <ol style="list-style-type: none"> (1)、印刷の流れを把握する 受注—拾い—組版—印刷—校正— —印刷—解版—返し （印刷機の微調整の仕方に目を輝かせながら取り組む） (2)、班員への時間の指示 「休憩してください」「掃除をしてください」「日誌を書いてください」「終わってください」 （「なにをとろとろしとるだあ」と上級生にいう） 	<ol style="list-style-type: none"> 1、1学期の解版作業の進歩を認め解版主任の証明書を発令することによってM夫の力を班員に明らかにした上で班長に任命する 2、みんなの作業について理解した上で班長の役割を果たすことが大切であることをわからせたい <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後に個別指導を行い理解を深める ・ 微調整は班長でなければ学習しない点を強調しながら班長としての自覚を高める ・ M夫の指示の仕方を注意するのではなく班員へ大声で返事をするように指導することによってM夫の声も大きくしたい ・ 班長として適切でない言葉使いの時にはその場ですぐに強く注意を与える ・ M夫を認めさせるためM夫の好ましい態度を大きな声で班員に知らせる
<p>『M夫の反応と変容』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、放課後の個別指導に対し、非常に積極的であった。 2、1対1での指導の回数が増えるに従って自ら進んでM夫自身のことを話すようになり、情緒的に安定した様子が見られるようになった。 3、上級生に対していたずらをしかける等の行動が殆ど見られなくなった。 4、班員への指示の声が次第に大きくはっきりすると共に適切な適切な指示事項が多く見られるようになった。 	

(3) 年賀状印刷時に於ける指導の実際

『ねらい』

1. 年賀状印刷班12名の班長としての責任を果たす。
2. 年賀状の受注等の渉外、実務の仕事に積極的に携わる。

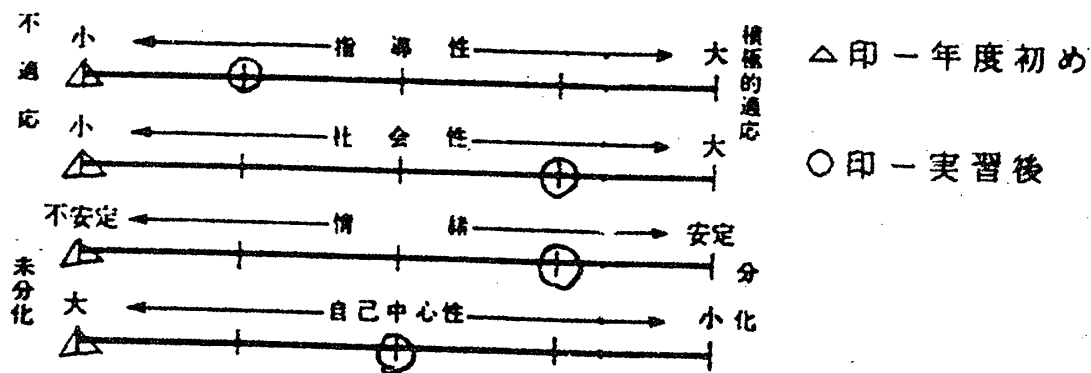
主な指導内容と(反応)	意 図 ・ 留 意 点
<ol style="list-style-type: none"> 1. 年賀状印刷学習の諸準備 <ul style="list-style-type: none"> ・注文票・値段表・出来高グラフ作り 2. 渉外についての指導 <ul style="list-style-type: none"> ・受注・配達・集金 大学—農学部、教育学部・本部・工学部 県庁—指導課、教職員課、体育保健課 (言い方を何回も質問をし体を小刻みに動かし落ち着かない) (腕に年賀状を大事そうに抱え嬉しそうに「先生、注文してもらいました」と大きな声で報告をする) 3. 実務指導 <ul style="list-style-type: none"> ・注文票—受付簿記帳(受付月日、氏名、所属、枚数、)—葉書に記名—収納—印刷工程—点検—整理—包装—請求書記帳(刷り日、渡し日、金額、領収日) ・出来高枚数をグラフに記入する 4. 作業態度 <ul style="list-style-type: none"> ・わからないことは必ず質問する (「お忙しいのにすみませんが・・・」といいながら質問をする) ・商品は丁寧に取扱う ・班員への指示は大きい声ではっきりと行う 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業の時間だけではなく放課後に教師の手伝いをする事により校内実習への意識を高める 2. 初めての経験への不安感を言いかた練習を繰り返し行う事で軽くする <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の庶務係の位置確認・説明方法 ・受注先の担当者に前もって指導を依頼する ・1人で出来るという自信をつけるため2回めからは、教師は外で待機する 3. 記帳が正確になされないと注文者に大きな迷惑をかける事態が起こることを具体的に説明し実務の重要性を認識させる <ul style="list-style-type: none"> ・出来高枚数が日毎に増えるグラフを見ることによって、作業意欲が高まるように生徒下校後に印刷補充をして増やしておく 4. 根気よく作業を続けることは出来るが字を書く事が苦手であるため、氏名を記帳する際にいい加減な字を書いてしまうのを防ぐため必ず質問する習慣をつけたい <ul style="list-style-type: none"> ・葉書1枚1枚が大切な商品であることを意識させ、班員に対してもこのことについてM夫が指導できるようにしたい ・不良品の見分け方、不良品がでた場合の注文者への謝罪の方法を包装係りに指導させる

『M夫の反応と変容』

1. 依頼された賀状の整理が実習時間内に出来ない日は、自主的に残業をする等班長としての自覚が高まった
2. 自分の仕事だけでなく、積極的に教師や班員の手助けをしようとする態度がみられるようになった。
3. 受注初めのおどおどした態度も印刷実習後半の集金時には、自信ある態度で出来るようになり、集金先で冗談も言えるようになった。
4. 受注者からは、自分のことを「僕はM夫君です」などと答える失敗は見られたが大体においては敬語が使える、礼儀正しい、はきはきと応答するといった高い評価を受けた。
5. M夫を恐がっていたS子やT子が「M夫さんM夫さん・・・はどうしたらいいですか」と質問するようになった。

4. 考察と反省

心身障害児童生徒性格診断検査 (IHP) を年度初めと実習後に行って、その変化を見た。



その結果 14 項目のうち、本テーマに特に関わりのある「指導性」「社会性」「情緒安定」「自己中心性」の項目について比較してみると、各項目共に向上していることがわかる。班長としての指導性の変化は顕著ではないが、なかでも「社会性」は適応性が不適応であったものが積極的適応に、「情緒安定」は分化性が未分化であったものが分化していることがわかった。このことから印刷学習に於ては好ましい変容がなされていることがいえる。

しかし、印刷学習時に発揮される礼儀正しさ、根気強さ、責任をもって仕事に向う態度などが他の場面では生かされていない点が大きな問題である。

5. 今後の課題

- (1) 印刷学習時の好ましい態度を他の学習面にも生かす
- (2) M夫を恐れる児童生徒の指導

これらの課題は、一朝一夕には解決出来ない。学園、家庭、学校が協力し合い、M夫を認めていくなかで育てていかねばならない。～してはいけないという指導方法ではM夫の課題は決して解決しないであろう。

M夫と共に悩み、共に喜びあえる仲間が一日も早く、一人でも多く出来るように、他の子どもたちへ働きかけをすることも忘れてはならない点であろう。